第12回日本医薬品安全性学会学術大会
The 12th Annual Meeting of Japanese Society of Drug Safety

ランチョンセミナー4

# 病院経営を変える“コストの見える化”

## ― 薬剤部発 YOKOGUSHIとバイオシミラー活用 ―

2026年7月26日(日)12:20-13:20

第1会場(アクロス福岡 4F 国際会議場)
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号

座長
**内田 まやこ 先生**
九州大学病院 薬剤部 薬剤部長・教授

演者
**島ノ江 千里 先生**
佐賀大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長・副病院長・教授

**事前予約について**

- 本会のランチョンセミナーは、事前予約制です。詳細は学会ホームページをご参照ください。
  https://www.jasds2026.org/registration.html
- ランチョンセミナーを事前予約された方は、ネームカードに事前予約券が印字されます。
- 事前予約券有効期限:セミナー開始5分後に無効となります。

SANDOZ

共催:第12回日本医薬品安全性学会学術大会／サンド株式会社

OMN2606C-PN
2026年6月作成

# 病院経営を変える“コストの見える化”
## ― 薬剤部発 YOKOGUSHIとバイオシミラー活用 ―

**島ノ江 千里 先生**
佐賀大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長・副病院長・教授

医療機関を取り巻く経営環境が厳しさを増す中、薬剤部には医薬品安全の確保に加え、病院全体の経営基盤の強化に寄与する役割が求められている。本講演では、薬剤部が中心となって進める“コストの見える化”の取り組みを紹介し、部門横断的な連携（YOKOGUSHI）とバイオシミラー活用を組み合わせた、病院経営に資する実践を提示する。

当院では、薬剤費を単なる支出項目として捉えるのではなく、診療プロセス全体の中で最適化すべき経営資源として位置づけている。医療の質を損なわずに費用対効果を高めることを重視し、事務部門と協働して診療科ヒアリングを体系的に進めてきた。これにより、診療科ごとの治療方針や薬剤選択の背景による在庫・使用量の変動要因、DPCとの整合性などを可視化し、医薬品使用の実態を経営的視点から把握できる基盤を整備した。

高額医薬品に関する損金回避の取り組みは薬剤部が中心となって推進しており、治療の質を維持しつつコストリスクを回避する最適な運用を診療科との対話を通じて検討している。このプロセスを通じて、病院全体にコスト意識が浸透し、単なる費用削減ではなく、医療の質を保ちながら資源を適切に活用する組織文化の形成につながっている。

さらに、こうした“見える化”の仕組みは、医師・看護部・事務部門が共通の認識を持って意思決定できる環境を生み出している。薬剤部がハブとなるYOKOGUSHI体制により、従来の縦割りでは把握しにくかったコスト要因を共有できるようになり、適正使用の推進、在庫管理の精度向上、予算管理の透明性向上など、複数部門で具体的な改善が得られている。

一方、バイオシミラーの計画的導入は、医薬品安全と経営改善を両立する重要な戦略である。エビデンス整理、当院におけるコスト削減効果、患者の治療継続への影響を踏まえ、診療科との合意形成を段階的に進めている。これらの取り組みは、治療の質を維持しつつ薬剤費削減を実現し、創出された財源を新規治療導入や安全対策へ再投資する循環を構築している。

本講演では、①事務部門との連携による診療科ヒアリング、②コストの見える化がもたらす組織的効果、③バイオシミラー活用の実装プロセス、④損金回避と医薬品安全を両立する病院経営戦略としての薬剤部の役割について、当院の取り組みを基に報告する。